

## 平成 29 年度 記者懇談会（第 4 回）の記録

日 時 平成 29 年 7 月 25 日（火）午後 3 時 30 分  
場 所 水道庁舎 4 階 会議室  
記者数 7 人  
同席者 飯川副市長、天野副市長、総務部長、農政部長、経済部長  
次 第 1 東京淀橋市場における岩見沢農産物フェアの実施について  
2 北海道そらちグルメファンド 2017 について  
3 その他について



## 1 東京淀橋市場における岩見沢農産物フェアの実施について

### 説明内容

#### (市長)

よろしくお願ひいたします。最初は、東京淀橋市場における岩見沢農産物フェアの実施についてでございます。

岩見沢産農産物の消費拡大の取り組みにつきましては、岩見沢市農産物消費拡大推進協議会が中心となって取り組みを行ってきているところでございますが、岩見沢産農産物の消費拡大につなげるために、本年度の新たな取り組みといたしまして、来月8月24日、25日の2日間、東京の新宿にあります淀橋市場や都内量販店におきまして、「岩見沢農産物フェア」を実施し、新たな取引品目や取扱数量の増加、さらには首都圏の住民の方々へのPRを行ってくるものでございます。

まず、この淀橋市場についてでございますが、1日700トンから1,000トンの野菜、果実を扱う青果市場でございますが、都内にあります11市場のうち、青果市場としては、大田・築地に次ぐ3番目の取扱量の市場でございます。

また、東京新宿ベジフル(株)は、淀橋市場内で唯一の青果卸売業者でありまして、JAいわみざわとこれまで、玉葱や白菜の取引があり、岩見沢産農産物と関わりの強い事業者でもございます。

この関係を活かしまして、昨年8月、都内量販店でJAいわみざわ野菜連絡協議会の主催により岩見沢産農産物フェアを実施をしたところでございます。多くの農産物が好評にご購入いただくとともに、「ミニトマト」が新たに取引されることになったため、本年度は、内容を拡充し実施することとしたものでございます。

あらためて日程は、8月24日と25日の2日間でございますが、場所は、淀橋市場内と都内量販店の2店舗で行う予定でございます。

主催は、JAいわみざわ野菜連絡協議会で、JAいわみざわ、生産者、消費拡大推進協議会の職員が参加を予定しております。

現在の具体的な内容についてでございますが、8月24日は仲買人が集まる午前6時からJAいわみざわの村木組合長と私によるトップセールス、さらには試食を行い、岩見沢の旬な野菜をPRしてまいります。

早朝のイベントが終了したのち、都内量販店2店舗で2日間、農産物フェアを開催することとなっております。

また、既にプレスリリースでお知らせしておりますが、札幌圏での取り組みといたしまして、昨年7月29日から8月28日までの1か月間に実施をいたしました「ビッセマルシェ」、このイベント会社との関係を活かしながら、本日7月25日から8月10日までの17日間、札幌の大通りビッセの地下、チカホ直結スペースでございますが、におきまして、「いわみざわマルシェ」を開催をしております。

具体的には、平日、月曜日から金曜日の13日間は、スイートコーン・キャベツなど朝採り野菜などの農産物を販売。期間中4日間あります土・日につきましては、地場産の小麦を使用したパン、大豆を使用した豆腐などの加工品を販売し、農産物や特産品、併せて観光などのPRを行うこととしております。

以上でございます。

### **質疑応答**

#### **(読売新聞)**

淀橋で取り扱う品目は量にしてどれくらいになるのでしょうか。

#### **(市長)**

種類はですね、きゅうりとスイートコーン、カボチャ、玉ねぎ、キャベツ、ミニトマトなどとお聞きしております。

#### **(読売新聞)**

品目としては10種類ぐらいですか。

#### **(市長)**

現時点だと思いますけれども、きゅうり、玉ねぎ、にんじん、白菜、長ネギ、カボチャが3種類、キャベツ、ミニトマト、とうもろこし、いんげんも入りますね。

#### **(読売新聞)**

岩見沢で採れた野菜で好評だったものはどういうところが、受けが良かったのでしょうか。

#### **(市長)**

基本的には新鮮だということと、都内の価格に比べて安い価格でのご提供させていただいているということと、北海道産ということと、野菜や果実に対する注目というのは非常に高いですね。デパートの北海道展というのは道産品の食料とかは非常に注目されていますし、野菜についても同様な傾向かと思えます。

#### **(読売新聞)**

野菜はもちろんそうなんですけれども、米どころでもあるので米をPRすべきかなと思うのですがいかがでしょうか。

#### **(市長)**

今回東京で7月20日ですけれども、東京プロモーションをやってきましたけれども、その時には実は4,357人が来場いただいたんです。なんでそんなに詳しくわかるのと聞いたら、出入口に顔認証のセンサーが付いていて、スタッフが赤いポロシャツを着ていたんですけれども、それを除外した数がちゃんとわかるんですということだったんですけど、そういった時には岩見沢市のPRとしては北海道一の米どころ並びに白菜の生産量が一位と。お米についても300グラム、ちょうど2合サイズを3種類、「ゆめぴりか」と「おぼろづき」と「ななつぼし」とそういったものを販売したんですけれども、当然お米も注目を集めましたけれども、その時もスイートコーンとか持っていった野菜類はすぐはけましたね。ただお米というのは市場で扱うものではないので、それはまた別途。

#### **(北海道新聞)**

都内量販店というのは具体的に分かれば教えていただきたいのですが。

#### **(農政部長)**

よしや目白高田店、大塚店です。

**(北海道新聞)**

いわみざわ野菜連絡協議会というのは市と岩見沢生産者でつくられた組織ですか。

**(市長)**

市ではなくて農協の中の生産者の組織です。

**(北海道新聞)**

市役所は関わっていないのですか。

**(市長)**

消費拡大推進協議会。

**(北海道新聞)**

消費拡大推進協議会の事務局が市の中にあるということですか。

**(市長)**

消費拡大推進協議会の事務局は市です。

**(プレス空知)**

今年の農産物フェアで販売になった量は、成果としてどの程度だったのでしょうか。

**(農政部長)**

農協さんの方で持っている協議会なので、聞いてみたんですけども全体的に集約されていないので詳しい数字はわからないと言われましたので。

**(プレス空知)**

概数としても。

**(農政部長)**

細かい数字をまだまとめていないんだというお話がありましたので、そこはそれ以上は聞けなかったんですけども。個々の品目の細かい数字ですか。

**(プレス空知)**

いえ、トータルで、品目は一つ増やしただけですから、去年は10種類ですよ。

**(農政部長)**

去年もミニトマトは持って行っています。それは淀橋市場と取引はなかったんですけども、農産物で持って行って評価が高かったのも、これからミニトマトを取引させてくださいということで新規開拓に繋がったということなんですね。

**(プレス空知)**

ただ、どの程度くらい持っていったのかぐらいは。

**(市長)**

じゃあ、あらためて。きゅうりだと10本入りが60個、50本入りが100個。

**(プレス空知)**

例えば、玉ねぎ3サイズ合計でどのぐらいなんですか。

**(市長)**

まだ確定していないんですね。確定したらお知らせすることにさせていただきます。

**(北海道新聞)**

市長がトップセールスされるということで、どんなところをアピールされてくるかをお伺いできますか。

**(市長)**

安全で安心でおいしい、そして新鮮な野菜を食べてください、ご賞味くださいということで、それをまた仲買人の方はバイヤーですから是非お取扱くださいということだとおもいますけれども。

## 2 北海道そらちグルメフォンド 2017 について

### 説明内容

#### (市長)

それでは、第4回目を迎えます「北海道そらちグルメフォンド2017」についてでございます。

今年のグルメフォンドは、8月20日(日)に開催をいたします。昨年度と同様にいわみざわ公園野外音楽堂キタオンが発着ゴールの場所になります。

自然豊かな空知の特徴を活かし、「食」と「サイクリング」を組み合わせたイベントを開催することによりまして、サイクリングを通じた誘客の促進、地域振興の発展を推進することを目的に、平成26年度から実施をしております。今年度は、昨年度が台風の影響で中止、一部縮小して実施というような状況でございましたので、昨年度当初に設定した、岩見沢、三笠、美唄、月形を廻るコースとしたところでございます。

昨年度からの変更点といたしましては、ロングコース、ミドルコースに加えまして、新たにビギナーズショートを設けまして、3コースとしたところでございます。また、前夜祭も予定をしているところだそうでございます。

コースは、キタオンから三笠、美唄、月形などを經由する120km、これがロングコースになります。キタオンから三笠、美唄を經由する70kmコース、これがミドルコースになります。それと、40kmコース、これがビギナーズコースの3コースということでございます。

また、昨年度は雨でありましたので、今年は晴天を期待する意味を込めまして、昨年度の「水」から「適(あっぱれ)」というテーマに変更したそうでございます。

主催は、北海道そらちグルメフォンド実行委員会でございます。岩見沢市のほか、美唄市、由仁町、長沼町、栗山町、月形町、岩見沢市観光協会などで実行委員会を組織をいたしまして、大会長は私がということでございます。

また、大会の運営には、昨年と同様に、一昨年もそうでございますが、陸上自衛隊岩見沢駐屯地第12施設群のご協力をいただくこととなっております。

ちょうど7月24日現在で最終締め切りがございまして、その申し込み状況でございますが、ロングコース120kmコースは定員500名のところ435名、ミドルコース70kmのコースは定員300名に対しまして307名、ビギナーズショート40kmのコースは定員40名に対して44名となっております。申しあげましたとおり、ミドルコースとビギナーズショートは定員をオーバーしている状況、ロングコースも定員の65名少ないくらいとそのような状況でございます。

南空知の豊かな自然景観と魅力的なグルメを堪能できるサイクリングイベントとして、満足度の高いイベントとなるよう今年も取り組んでまいります。

以上でございます。

## **質疑応答**

### **(プレス空知)**

市長はお出になりますか。

### **(市長)**

今年大会長ですから。

### **(プレス空知)**

前に一度、途中で。

### **(市長)**

出ました。1回目と2回目に出たんですね。1回目は美唄がスタートとゴールで、2回目はキタオンがスタートとゴールでしたけれども。イベントの運営上、途中で切り上げて帰ってまいりましたけれども。去年は雨でしたので、ちょっといろいろ忙しい年でもありましたので。今年は大大会長の任務に専念しようかなと思っていますけれども、まだわかりません。

### **(プレス空知)**

40 kmであれば。

### **(市長)**

40 kmであればね。まずは晴天を祈ると、あつぱれですから。未定ということですよ。ちょうど2回目の時に実は、サイクリストの中ではキングオブグルメフォンドと評価いただいたんです。そして3回目に色々内容を充実したけれども雨だったということで今回リベンジの4回目というようなことになろうかと思えます。ロング、ミドルに加えてビギナーズショートをやったので、去年が申込者数でいくと去年はロングとミドルだけだったので710名ですけども、今回は786名というふうに参加者自体の数は増えているというようなところでございます。

### **(プレス空知)**

各コースの途中で用意するエイドでのグルメで今年は今まで予定していなかったような、どんなものが用意されているのでしょうか。

### **(市長)**

今実行委員会と協力企業とで一生懸命に調整かけているのではないのでしょうかね。

### **(経済部長)**

最終調整中でございます。去年とそれほど大きく変わらないと思うんですけども、それぞれの地域の特産品を使ったものを提供させていただくという方向で今調整中でございます。

### **(NHK)**

参加者がどちらから来られているのか教えていただけますか。

**(経済部長)**

去年ですと道内が94.6%、道外が5.4%。最終的にはまだ集計していないんですが、今年は道外からの方が1%強伸びているというような状況でございます。それと市内の方の参加の割合がこれも途中なんですけれども、全体の中では56人ということございまして、だいたい全体の7%強が市内からの参加、それ以外の方は市外、道外からのご参加というかたちになります。

**(NHK)**

道内の中でも例えば札幌圏とか細かい数字はございますか。

**(経済部長)**

具体的な数字は手元にないのですが、札幌地域がやはり非常に多いということです。

**(市長)**

今年道外が多かったというのは、PRを主催者サイドの方で企業と連携をしてやっています。道新さんの特集の広告も出したみたいですが、サイクル雑誌、例えば「バイシクルクラブ」とか「自転車日和」とか「超初めてのロードバイク実践編」とかウェブの「サイクルスポーツ」とかそういったPRを見ての参加というのも増えた要因なのかもしれないなというふうには思っていましたけれども。

### 3 その他について（記者からの質問）

**質疑応答**

**(北海道新聞)**

給食問題についてお伺いしたいと思います。我々のところには7月5日をもって公表されたというかたちなんですけれども、市教委からは市長に対しては異物確認後速やかに報告がなされていたのでしょうか。

**(市長)**

私のところにあったのはその直前ですねほぼ、確か。6月の30日か7月の頭くらいじゃないですかね。

**(北海道新聞)**

市長が今回教育長の任命権者ということで、市長の方からこういうふうなという指示はなされた部分というのはあったのでしょうか。

**(市長)**

私のところに報告が来た時点で速やかに報告しなさいと、それから保護者の方々に対応を含めてきちっと説明するようにしてくださいと、それからその時点でどの程度の米飯提供の中止期間があるのかまだ想定つきませんでしたから、その期間を短くするべく、衛生管理、炊飯機器の洗浄、部品交換を速やかに行うように指導しなさいということですね。それを踏まえて公表したのが7月5日でしたか。

**(北海道新聞)**

軽自動車税の関係の調査というのはどこまで進んでいるものなのでしょうか。

**(総務部長)**

まだ聞き取り調査進めております。

**(北海道新聞)**

いつごろまでかかる見通しなんでしょうか。9月議会にやるから急いでいないということなんでしょうか。

**(総務部長)**

そうではございません。あくまでも慎重を期するために何度も聞き取りをやっていきますから。

**(北海道新聞)**

スピード感は我々には理解できないところなんですけれども、いつごろまでかけてやる見通しというのはあるのでしょうか。

**(総務部長)**

それは終わり次第やりたいと思いますけれども、まだかかっていますので。ご理解いただかないとならないと思います。

**(プレス空知)**

だいぶかかっているというのは分かったんですけれども、全体のイメージとするとその何パーセントくらい、今どのくらいの進捗ですか。

**(総務部長)**

根がどこまで広がるかというのは分からないところもありますので。

**(プレス空知)**

ということは想定以上に根が深いということですか。

**(総務部長)**

根が深いというか、色々聞いて判断しなければならない部分というのがありますので、状況的には。我々としては慎重を期して前段の作業が終われば即座に審査委員会に入っていきたいと思っております。

**(北海道新聞)**

もう一点、淫行の関係で逮捕された関係はその後事情聴取などは進めてらっしゃるのでしょうか。

**(総務部長)**

これは警察関係の話ですから、我々にはまだ情報は入ってきておりません。

**(北海道新聞)**

起訴、不起訴になったかという情報というのは入っていませんか。

**(総務部長)**

まだありません。

**(北海道新聞)**

職員は今のところまだ自宅待機という状況なんでしょうか。

**(総務部長)**

だと思えますけどね。

**(北海道新聞)**

事情聴取はできていないのでしょうか。



**(総務部長)**

まだ事情聴取は続いているんだと思いますよ。

**(北海道新聞)**

別件ですけれども、6月末には公開された市長の昨年度末現在の資産の公開状況についてお伺いできればと思います。

一番分からなかったのが昨年2期目にスタートした9月9日時点で借入金というのが約1,636万円あったんですけれども、それが年末の時点でゼロというかたちになっているんですけれども、この借入金を完済した理由を教えてくださいと思います。

**(市長)**

それは増減だけ載せるからじゃないの。

**(北海道新聞)**

そういったことは確認していないですけれども、これが無くなっているのは事実です。すねということだったんですね。

**(市長)**

今年の4月に公開するやつでしょ。

**(北海道新聞)**

4月に公開されて我々に公開されたのは6月末。

**(市長)**

それは6月に公開するでしょ。そういうふうになってる。

**(北海道新聞)**

そんな覚えはないですか。

**(市長)**

ないです。借入金の用途までは公開する云々というのはないでしょうけれども、もし現状で借入金が無くなっているということであればそれは間違いだと思いますけどね。ちょっと確認してください。実際にゼロになっているのはどれを見て言ってるの。

**(北海道新聞)**

公開された資料に基づいて。

**(市長)**

手元にお持ちならちょっと見せてください。

**(秘書課長)**

補充の報告書なので、増減の無い場合には該当なしとか。

**(北海道新聞)**

全く増減が無いというものなんですか。借入金が増えなくなったということではないんですね。

**(秘書課長)**

そうですね。そこが報告書と補充報告書の違いですね。

**(北海道新聞)**

プラマイがゼロということなんですね。そこは私の勘違いということでごめんなさい。じゃ資産の部分で確認させていただきたいと思います。ご自宅の建物の部分が2

つに分かれていまして、251㎡のところと27㎡というのがあるんですけども、これは27㎡というのが車庫ということですか。

**(市長)**

そうです。はい。

**(北海道新聞)**

土地に関しては240㎡台のが2つありますけれども、これは2筆持っていらっしゃるという意味でよろしいですか。

**(市長)**

はい。

**(北海道新聞)**

後は生命保険関連の株と自動車2台とローンの資産ということよろしいでしょうか。

**(市長)**

そうです。

**(北海道新聞)**

それで定期などの預貯金はこれまで通りないということよろしいですか。

**(市長)**

あれば載せてます。

**(北海道新聞)**

それでは基本的には去年から変化のあった部分としては、去年9月現在から無し。

**(市長)**

借入金が返済しているから若干減っているんではというイメージはあるけど。

**(北海道新聞)**

該当なしというのは。

**(市長)**

それはいつ時点なのかなと思って。後から中川さんに記載が間違っているかどうかの確認しようかなと思って。

**(北海道新聞)**

資産、負債に関しても変化なしということよろしいんですか。

**(市長)**

選挙終わったらいきなり借金返したと思って？

**(北海道新聞)**

退職金が一期目の終了で出るでしょうからそれを充てたりしているのかなと。

**(市長)**

使途の問題は関係ないんじゃない。

**(北海道新聞)**

基本的には定期についてはないということ。

**(市長)**

今までもないですって。

### **(プレス空知)**

学校給食の米飯の関係なんですが、直接の所管ではないというところではあるんですけども、今回相次いでですね、6月に異物が混ざっていた、その後停止して、洗浄かけて部品の交換をして試験炊飯をした、それでもカビかどうかはともかくとして、異物が混入するというのが止まっていないという部分に関してですね、市長としての御所見というか、コメントをいただきたいのですが。

### **(市長)**

結果として米飯の提供が長期に渡って止まっていることについては、保護者の方と児童生徒の皆さんに本当に申し訳ないなと遺憾に思っています。これを速やかに、2学期の当初から米飯提供等々につきましては完全に実施できることを教育委員会には全力を尽くして対応すれというふうに指示をしているところでございます。夏休み期間中にしっかりとした対応と今後の方向性については明らかになってくるものだと思っております。その公表が遅れた云々というのは評価の問題もあるのかもしれませんが、当初健康被害を及ぼさないという判断をした、米ぬかに由来するのではないかということもあったけれども、私の記憶では30日にカビが含まれていたと。ただ簡易検査の結果でしたので、結果としてはそれを培養してもカビが出ないということでカビ自体は死滅しているのので仮に食したとしても健康被害はないだろうというふうには言われてはいますけれども。ただ、より衛生的な炊飯業務というのは必要な訳ですから、その後の対策を続けてやっているというようなこととなります。

### **(プレス空知)**

教育委員会の方は今月末、来週の月曜日を目途に期限を第一段階に決めるという話があったんですが、新しい調理所の方にも影響があるかと思うんですけども、今月末の期限を決めて対応を決めるというのは教育委員会の判断に委ねられるのかなと思うんですが、新調理場でおかずですとか、通常の調理の業務の他に、新たに米飯の炊飯機能も追加しているということなんですけれども、これの委託に当たってどのような見解というか思いを持っていらっしゃいますか。例えば今回、会社の調理環境でこういうことが続いているというのがあるんですけども、仮にこういうところが業務委託の参加を表明するということに対しての御所見。

### **(市長)**

参加を表明するかどうかについては今後の議論だと思っておりますので。現在現時点でそれをどうこうというのではなくて、むしろ今教育委員会で最優先しなければならないのは、2学期から米飯の提供を完全に実施するというようなことにまず全力を注いで、後、新しい給食の施設自体はハサップ機器も全て新品になりますし、ハサップの概念を導入するので極めて高いレベルの、道内の学校給食、他の学校給食調理所と比較してもかなり高いレベルでの衛生管理ができるような状況になりますので、その機能をフルに発揮して衛生管理ができる状態で民間業者に委託をするというようなことを中心に教育委員会で検討されると思います。今の段階で余断を持ってどうだこうだというのはまだどうかなと思います。

**(プレス空知)**

心配だったのは、ハサップの基準でハードを整備する、整えるというのは乱暴な言い方ですが、一定の投資をすればできるのではないですか。運用するのは当事者であって、それを管理する人達がいてということになると思います。

**(市長)**

ですからハサップは運用管理も含めての概念ですから。ハードだけ新しくなっていればハサップという概念ではありませんので。衛生的で安全な調理業務というんですかね。そういったものが実現できるということで初めて認められるので、ハードだけの問題ではないので。ですからソフト、衛生管理自体の問題も含めて実現できるか、機能を発揮できるか、そういったところがポイントになってくるんじゃないかなと思いますけれども。

**(プレス空知)**

ですからその部分で、衛生管理の部分の徹底というのは望めるのかどうかというのはちょっと疑念というかですね、あるのかなと思って聞いてみたんです。

**(市長)**

ですからハサップの概念の基で責任のある衛生管理体制も含めて、教育委員会でこれまでの経過とこれからの結果を含めて判断されると思っていますけれども。

**(プレス空知)**

結果的に外注であったとしても、調理業務を外注したとしても、外注した業者が何かを起こしてしまえばそのハサップという印象が飛んでしまう可能性も起こり得るかなと思って。

**(市長)**

今度は米飯は中の業務になりますから。外注というのは業務の委託と言う意味ね。それは民間業者にしてもらいます。市役所の職員で調理員とか精通した職員はいませんから。それは専門業者にとということになります。

**(NHK)**

給食での対応ですが、6月30日の時点で市長に報告が入りまして、その後速やかな報告をするように、対応するようにご指示された中で、7月5日に発表になったということについてお伺いしたいのと、たて続けに続いてその度にですね、いろんな不祥事の中でも常に速やかに報告するようにご指示をされていると思うんですが、なかなかそれが実行に移されていないというのは。

**(市長)**

今回の給食は6月30日の確か私、夕方に報告を受けたんですね。金曜日なんですね。1日、2日が土日か、3日、4日で各学校と今後の見通しと、培養検査の結果がいつ頃になるのかとか、どういう対策が取れるのかというのを確認した上でそれが5日に公表したということなので、米飯の保護者に対するパンの切り替えは速やかには、まず第一義的に行ったんですけれども、一定程度のより少し詳細な報告については5日に結果としてなったということですね。私自身はむしろそういった状態が断続的に続いていったという段階でもっと別の対応も取れなかったのですかということについても、話はしましたけどね。ただ一日6千食の給食を提供しているような状況で、健康

被害ということも関連が薄いという判断もあったということですから、そのような結果になったということです。

**(NHK)**

たて続けに出た時点ですすね、判断ができたのではないかということは、市長としては出た時に報告を受けたかった。

**(市長)**

一応ルールに基づいて、ガイドラインを作ってやっているんですけども、そういう報告があってしかるべきではないのかなという気はいたしましたけれども。

**(NHK)**

給食から離れてお伺いしたいのですけれども、岩見沢農業高校で道内で初めてグローバルギャップの取得について取り組みをされていまして、9月には審査を受ける。その高校生の取り組みを見てですね、市内の農家さんでもグローバルギャップを取ろうという動きが出ているんですが、先程の岩見沢農産物フェアでもですね、安全で安心でおいしい野菜をPRしていく。今後世界的にも戦っていたり、イオンさんがグローバルギャップ認証を一律に取っていないと買いませんよとかそういう動きが出ている中で、岩見沢市として農作物でそういう安全、安心を管理するようなギャップ認証を推進するとか、今そういう取り組みというのは考えられていますか。

**(農政部長)**

ギャップの関係は3種類あって、今グローバルギャップの方が中心になっていますけれども。岩農さんの方は経済部を通して聞いているのが一つ、それから各農家さんの分で行くと、それを認証取得するのにお金の関係だとか、単純に取れるのではなくてその後も工程管理をきちっとすることが条件になるので、生産者の中ではそれをやろうと思う人と、そこまでという人と色々あると思うんですよ。そこは色々温度差もありますし、また農協の関係もありますし、何らかの後押しを含めて議論が必要だと思っています。今後、農作物の振興という観点からは進んでいくと思います。

**(NHK)**

今後こういう動きが、ギャップ認証を取って、オリンピックに農作物を出していきたいんだという動きがあったら、その時は全面的に支援していくというようなそういうお考えなんでしょうか。

**(農政部長)**

そこは個々に色々ありますので、何とも言えないと思います。自分が取得をして自分が販路を見つけて直接売るんだというかたちの中の農家さんもいらっしゃいますし、いろんな販売ルートとの関係で、今後自分の農業経営をどう考えるかという選択肢の一つのアイテムでもある部分がありますので、基本的には幅は広がっていくというのが好ましいと思いますけれども、その辺は流通の中でも様々な部分の課題と言いますか、色々なことを考えなければだめなので、もう少し詳しく調べた中で、市としてあるいは、支援をする場合にはどういうかたちがいいのかということは、生産者を含めて議論をする機会が必要なんだろうなというふうには思っています。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)